

チカ鉄

～地下鉄が街と人と近くなる～

01. 銀座線コンセプト

銀座線は東京の地下鉄で最も歴史があり、地表面に近いところに位置します。しかし、地下に潜ると地上の様子は感じられず、各駅で均質な空間は地上とのつながりをさらに希薄にしています。

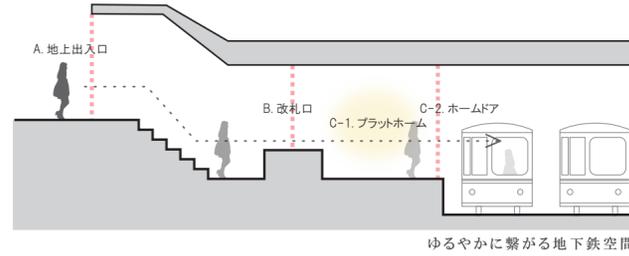
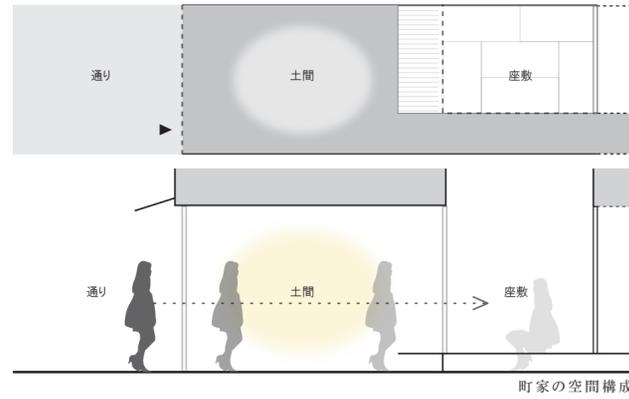
そこで、地下鉄と街、街と人、人と地下鉄をもっと身近に結びつけ、利用者にとって、より親近感のある“チカ鉄”になることを考えました。

銀座線は、トレンド・ビジネス・銀座・商業、そして下町エリアと東京の特徴的な街をつないでいます。電車を一步降りたときに、それぞれの街の顔となるホームが迎えることで、“チカ鉄”の旅が新たな東京の魅力となり、人と地下鉄と街が活性化することを期待します。

02. 町家の“ゆるやかな住まい方”

下町には通りに対して間口が狭く、奥行きが長い町家が連なっていました。町家の通りに面した空間では近所づきあいや商いが行われ、土間でできた室内には地域の人々が気軽に立ち寄ることができます。土間の奥の部屋では、座敷に腰を落ち着かせて客をもてなし、これらの境には人や自然の気配の伝わる設えがあります。このように、町家には通りから奥の空間へゆるやかに地域の人々を導き入れる住まい方があります。

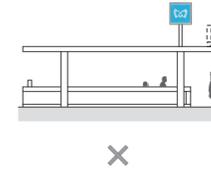
町家ならではの人と街を柔軟に引き込む空間構成とその空間を設える「格子」「のれん」「土間」「障子」「天窓」を地下鉄の空間に取り入れることで、利用者にとって地下鉄が親しみやすく、気軽に訪れることができるものになると考えました。



□「格子+のれん+土間+障子+天窓」を駅のデザインに反映

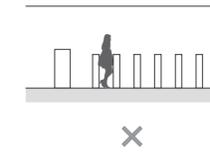
A 地上出入口×「格子」

地上出入口は地下鉄が唯一地上に表出する場です。お客様に分かりやすく、地域の人々を魅きつける出入口にしたいと考えました。ここでは「格子」のようなファサードとすることで、光と風の伝わる美しい出入口をデザインします。



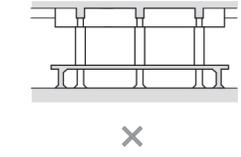
B 改札口周り×「のれん」

改札口周りは地下鉄の入場を管理し、スムーズにホームへとお客を誘導する必要があります。お客様が気兼ねなく入場できる、より敷居の低いゲートにしたいと考えました。既存のハードな改札機を取り払い、「のれん」をくぐるように入場する改札のシステムを提案します。



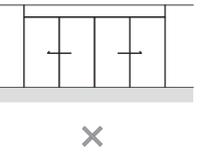
C-1 プラットホーム×「土間」

改札口周りは地下鉄の入場を管理し、スムーズにホームへとお客を誘導する必要があります。お客様が気兼ねなく入場できる、より敷居の低いゲートにしたいと考えました。既存のハードな改札機を取り払い、「のれん」をくぐるように入場する改札のシステムを提案します。



C-2 ホームドア×「障子」

ホームドアに導光板を仕込み、「障子」のように柔らかく地上の光をホームへと導きます。



稲荷町駅プラットホーム



神田駅プラットホーム

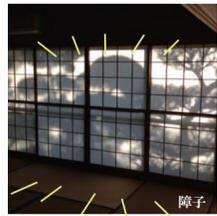


上野駅プラットホーム

03. 伝統 × 先端の融合

□地下の「土間」空間

地上とつながっている換気口を利用し、電車による空気圧の変化で地上の風をプラットフォームにやさしく届けます。また、水琴窟のような仕掛けが地上の雨の音を知らせます。導光板を仕込んだホームドアは「のれん」のように柔らかに地上の光を導きます。貯留した雨水は便所で二次利用したり、災害時に役立ちます。



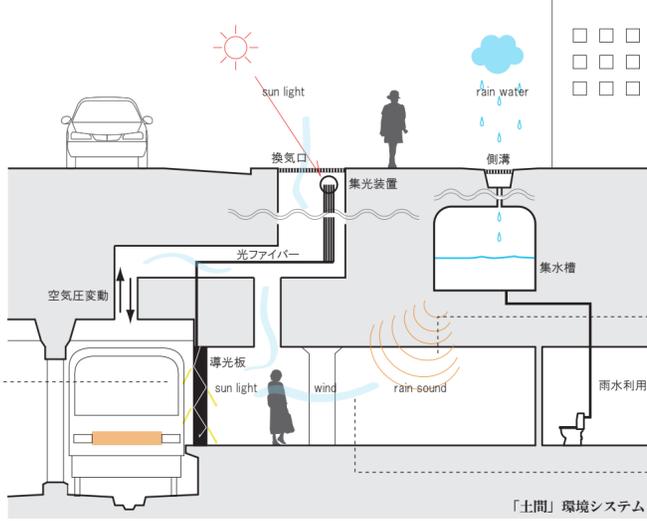
障子

□「のれん」システム

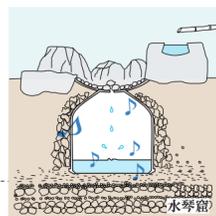
改札機を「のれん」に見立て、静電気による通信で入退場の確認をします。事前に携帯端末から目的地を入力しておくことで、「のれん」が情報を読み取り、床のサインが運動してお客様を出口の方向に案内することも可能になります。



改札口



「土間」環境システム

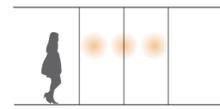


通の土間

04. 銀座線カラーのデザインへの反映

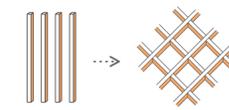
□プラットフォーム

柱型の側面・ホームドアの可動部に文様として銀座線オレンジを採用し、視認性を高めます。



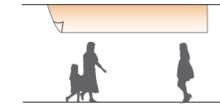
□地上出入口

格子材の側面や小口に銀座オレンジを採用し、格子に編み込んだような、柔らかな印象とします。



□改札口周り

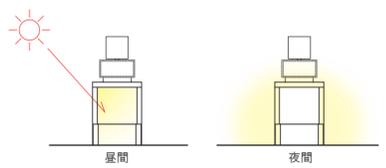
「のれん」を照明によって銀座線オレンジに染めたり、下端に銀座線オレンジを採用することで、ゲート性を演出すると共に視認性を高めます。



05. 照明計画

□地上からの光、街への光：地上出入口

昼間は格子の間から柔らかな光が差し込み、階段に映し出される格子のシルエットがお客様を地上へと導きます。夜間は格子の間から柔らかな光が溢れ、銀座線の出入口を街に知らせます。



昼間

夜間

□切り替えの場に光を当てる：改札口周り

「のれん」を発光させたり、照明を撫でるように当てることで、文字サインではなく「のれん」全体で改札口を認識できるようにします。



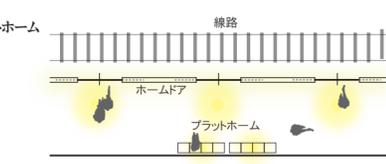
出入口

改札口

プラットフォーム

□人が待つところ、座るところを照らす：プラットフォーム

ホームドアに自然光を取り込み、幻想的な淡い光でホーム全体をやさしく包みます。人が滞留するホームドア前、ベンチ上部はスポット的に照明を配置します。



線路

ホームドア

プラットフォーム

06. デザイン提案・地域性との調和

G16／上野駅

四季を楽しむ自然豊かな上野恩賜公園は、明治時代に日本で初めて「公園」に指定された場所であり、現在も花見をはじめ自然や芸術を楽しむ場所として賑わっています。

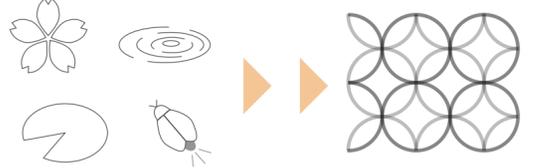


不忍池

蓮

蚕

桜



桜の花びらや不忍池の蓮や波紋、以前は不忍池の源流として流れていた藍染川（谷田川）の蚕、自然の循環等から、「円」をモチーフとした紋様で上野駅をデザインしました。

G17／稲荷町駅

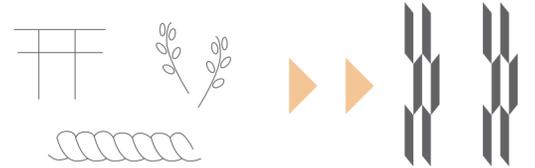
この地域には地名の由来でもある下谷稲荷（現在は下谷神社）があり、浅草通り沿いに立つ大きな朱色の一の鳥居が有名です。また、稲荷神社を象徴するような抱き稲が神紋となっています。



下谷神社一の鳥居

しめ縄

下谷神社の神紋



「鳥居」「しめ縄」「稲」の形をモチーフとした紋様で、稲荷町駅をデザインしました。

G13／神田駅

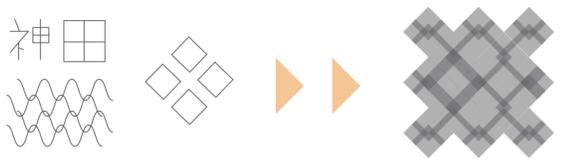
神田は江戸時代より職人・商人の町として発展し、木挽職や紺屋といった営みがありました。紺屋は現在でも地名として残っています。また、町人文化として神田祭が築かれ、この祭は現在でも日本三代祭として盛んに行われています。この祭の伝統を受け継ぐ担ぎ屋集団「勇會」の半纏には神田の田の字をあしらった「五分田」の柄が染められています。



神田祭

五分田

織物



「五分田」の柄と、紺屋の染める「織物」をモチーフとした紋様で神田駅のデザインをしました。



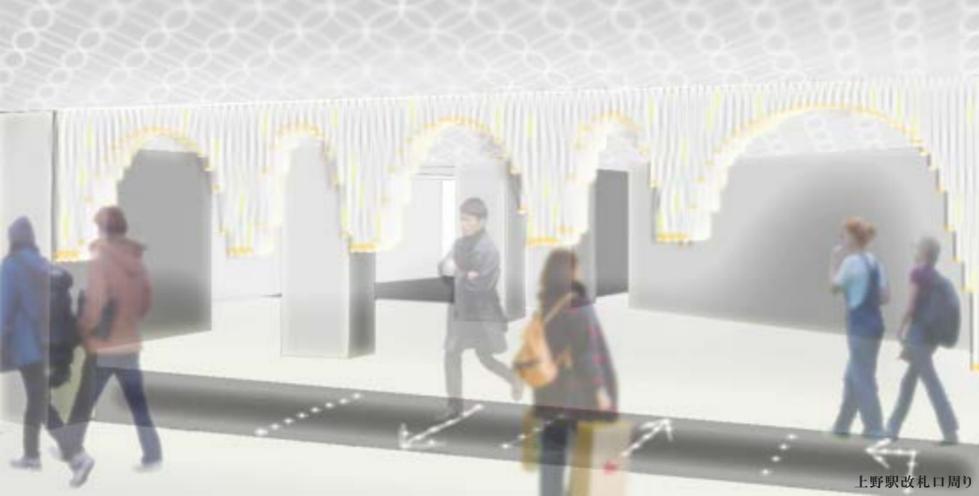
上野駅プラットフォーム



稲荷町駅プラットフォーム



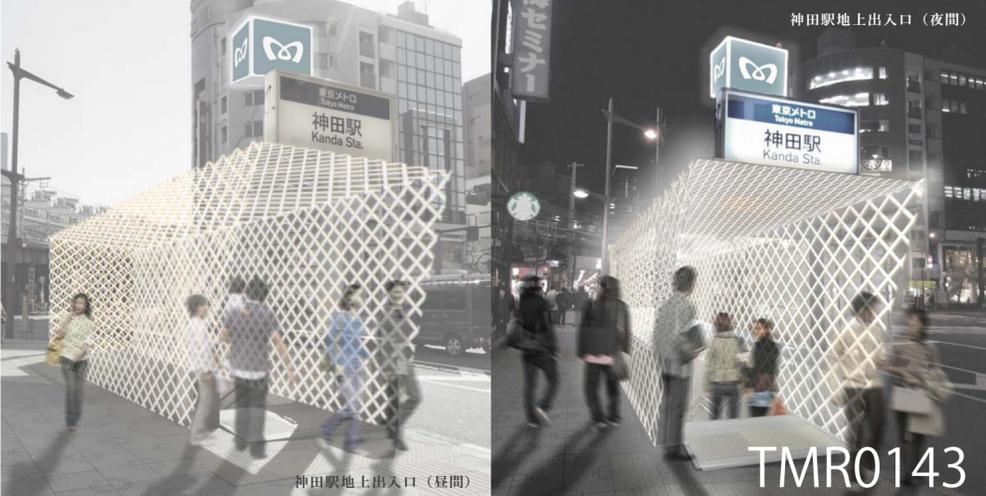
神田駅プラットフォーム



上野駅改札口周り



稲荷町駅改札口周り



神田駅地上出入口（昼間）

神田駅地上出入口（夜間）